

時制を完全マスター！

1. 英語の時制は奥が深い！

英文法の基本でありながら、一番修得しにくいのは「時制」です。英文法の学習は「時制」に始まり、「時制」に終わると言っても過言ではありません。いくら理屈でわかっているとしても、スピーキングや英作文ではミスがしばしばあり、というのがこの「時制」です。それもそのはずで、日本語は“timeless language”とも言えるように、「時制」が英語のように厳密でないからです。例えば「寝る前に顔を洗った」「勉強をした後で遊びなさい」のように、それぞれ現在形、過去形になっていますが、厳密に言えば前者が「過去」、後者が「未来」でないとおかしいでしょう。

このように日本語の時制の感覚、表現がムチャクチャであるために、英語を話したり書いたり（英作したり）する時にとまどったり、ミスが多くなるのです。まさに神秘の極地！ といってもそれは日本語が神秘的というか曖昧なのであって、単に英語、正確には英語コミュニケーションがより **Low-Context**（文脈依存度が低い）、簡単に言えばより「明確」であるということです。

このように他の言語コミュニケーションを身につけるということは、他の国の文化を吸収するということなので、単に言葉を覚えるといったものではなくて、そこではカルチャーショックも起こってきますし、それを心の底から乗り越えてこそ、日常の会話レベルでも自然に正しく使いこなせるようになるわけです。そういったカルチャーショックを乗り越えようと意識的努力をしなければ、何年経っても同じ過ちをし、相も変わらずブロークンな英語を使ってしまうわけです。

さて前置きはこの辺にして、例によってまずは練習問題にチャレンジして頂きましょう！

Challenge

第1問

正しいのはどれ？

§「関係者一行はカナダへ向かって、日本を発つ予定だ。」

Q 必ず発つので今準備中なのは、どれ？

1. The party concerned **will leave** Japan for Canada.
2. The party concerned **will be leaving** Japan for Canada.
3. The party concerned **is going to leave** Japan for Canada.
4. The party concerned **is leaving** Japan for Canada.
5. The party concerned **leaves** Japan for Canada.
6. The party concerned **is to leave** Japan for Canada.

正解は4です。未来を表す時、何でも“will”や“be going to～”だけで表現しようとするのは短絡的です。いろいろなパターンを使って是非ニュアンスを出してほしいものです。ではそれぞれどのようにニュアンスが違うのか、見ていきましょう。

まずは、ザァーと全体を通して見てください。

2 英文法の基礎時制を完全マスター！

1. The party concerned **will leave** Japan for Canada.
(外的な事情で発つであろう)
2. The party concerned **will be leaving** Japan for Canada.
(そういう予定でいるのもうすぐ準備にかかる)
3. The party concerned **is going to leave** Japan for Canada.
(以前からの予定で変更もあり得る, まだ準備にかかっていない)
4. The party concerned **is leaving** Japan for Canada.
(必ず発つ! 今準備中)
5. The party concerned **leaves** Japan for Canada.
(必ず発つ! 準備は万全)
6. The party concerned **is to leave** Japan for Canada.
(計画によって決められたことをすることになっている)

これらは、最もよく使われる未来表現です。では、もっと詳しく見ていきます。まずはよく使われる **will** と **be going to** の使い分けからです。次の表を見てください。

2. will と be going to の使い分けをマスター！

	will	be going to
意志	①外的(客観的)要因の場合 ②(強勢を置いて)強い意志 ③対話中に突然思い立ってする場合	①主観的意志未来 ②前々からの予定を表す ③意志や感情を強く出す

未来

①期限なしの未来
②話者の客観的判断

①近接未来

②話者の主観・確信を表す

このように使い分けができます。すごいでしょ！ 中学や高校の英語の授業で習ういわゆる「簡易文法」では、この2つは同じと教えていますが、実際は両者には大きな違いがあって、次の例文でわかるように

— **I'll be a teacher** when I graduate from university.

(大学を出たら教師をするでしょう)

— **I'm going to be a teacher** when I graduate from university. (大学を出たら教師になるんです)

前者は「意志」と「外的な、例えば家庭の事情」で「そうなるだろう」の両方のニュアンスがあるのに対して、後者は「なるんだ！」と強く意志を示す場合のみです。意志を表す場合で will を使うときは、

* **I will be a teacher** when I graduate from university.

のように「短縮形」を使わず“will”に「推量」ではなく「意志未来」の気持ちを込めて言ってください。では、次の例も見てください。

— **I'll go shopping.** (買い物に行ってきます)

— **I'm going to go shopping today.** (今日は買い物に行く予定です)

では、前者が**突然思い立った場合**で「思いつき」で言っているのに対して、後者は「**予定していた事をする**」場合に用います。

— **It will rain** tomorrow. (明日は雨が降るだろう)

— **It's going to rain** tomorrow. (明日は雨だと思うよ)

では、前者が「客観的」に言っているのに対して、後者は「主観的に」確信をもって言う場合です。最後に

〔He is going to help me.

〔He will help me.

では、前者が「近い未来のこと」を表し、「もうじき助けてくれる」と言っているのに対して、後者では期限がついているわけではないので、「助けてくれることは助けてくれるが、いつかはわからない」のニュアンスになります。このように will = be going to～と、中学校で習ったままで解釈するのは非常に危険です。

ちなみに 日常英会話でよく使われる “be about to” は次のように使います。

* He is about to help me. (彼は私を助けてくれるところだ)

この表現は「即時性」を表し、今「まさに助けてくれようとしている」様子を表します。そしてより即時的なのは、be just about to～, be on [at] the point of～ing ですが、後者は前者ほどは使われません。

いかがですか？ 同じようなものと思っていた “will” と “be going to” も奥が深いでしょう。では次に重要な “will” と “will be～ing” の使い分けを覚えて頂きましょう。

3. will と will be～ing の使い分けをマスター！

will は、今まで見てきたように未来表現としては主に次のような使い方をします。

- ① 話している最中に決心したこと
- ② 意見や今までの経験に基づく予測
- ③ 強い意志や、熱意を表す

will be~ing は次のような場合に使います。

- ① 明確に日時や期間などが決定している
- ② 話している時点より以前に決定している

列車に乗って英語の社内放送を聞くと、よく “After leaving Osaka, it **will be stopping** at Bentencho.” のように言っていませんか。この **will be~ing** は列車や飛行機のような乗り物の予定を表す時に **will be leaving** [arriving at] ~のように用いられます。それでは実際に使い方を見ていきましょう。まず、

— I **will** help you organize the meeting. (その会議の準備をお手伝いしますよ)

— I **will be helping** you organize the meeting. (その会議の準備を手伝っているでしょう)

前者には「手伝いますよ」という**意志や熱意**があり、後者では「以前から決まっていた予定」を表しています。次は

— **Will you come** to the meeting? (会議に来ていただけますか?)

— **Will you be coming** to the meeting? (会議にはいらっしゃいますか?)

前者は相手を招待していますが、後者は相手の来る可能性を訪ねていることになります。そして

— I'll **come** to the meeting. (その会議に行くことにします)

— I'll **be coming** to the meeting on Monday. (月曜の会議には行くつもりです)

前者はたった今話している最中に決定したことを言う場合、後者は以前から決まっていた予定を言う場合となります。いかがですか？ これらも奥が深いでしょう！

さて次は **be going to** と **be~ing** にまいりましょう。

4. be going to と be~ing の使い分けをマスター！

be going to~と be~ing は、どちらも既に決定していることについて用いますが、両者には2つの違いがあります。まず一つは、絶対確実とは言えない予定については **be going to** を使い、決定している予定については **be~ing** を使うということです。例えば次の文を見てください。

└ I'm seeing her tonight.

└ I'm going to see her tonight.

どちらも「今夜彼女に会う予定」ということなのですが、前者は会う約束がある、後者は約束があるとは限らず、とにかく心づもりだけはしている時に使います。

さてそれでは次に、よく「ややこしい！」と言われる go が続く場合を見てみましょう。

└ I'm going to Osaka at 6.30 pm. (6時半に大阪に行く)

└ I'm going to go to Osaka. (大阪に行く予定)

いかがですか？ 前者は実際に行こうとして、その予定に向かって既に行動を始めている場合、つまり出かける用意をして服を着替えていたり、実際に電車に乗っている場合です。後者は行く予定であると言ってるだけです。

よく結婚する予定のカップルに向かって、“**You are getting married.**”と言ったりしますが、その結婚が来年のことであっても、既に婚約したりしてその結婚のプロセスの中にあるので、be~ing を使います。まためでたいことなので、「確定」の意味合いも出すのです。

ちなみに **was going to~** は、過去のある時点からの未来に視点がある場合に用い、「~するつもりだったんだが（実際はしなかった）」という表現になり、

I was going to play tennis with you.

(君とテニスをするつもりだったんだ)

のように使います。

ところで「近接未来」を表す **be~ing** が使えない場合を次にあげておきますので、注意しましょう。

① 自然現象のように、自分ではコントロールできない未来

× I think it's raining soon.

○ I think it's going to rain [it'll rain] soon.

(すぐに雨が降ると思う)

② 長らく継続すると思われる未来

× People are living longer in the future.

○ People are going to live [will live] longer in the future.

(将来人はもっと長生きするだろう)

③ **be** 動詞と用いる場合

× He's being in Tokyo on Sunday.

○ He's going to be in Tokyo on Sunday.

(彼は日曜日は東京にいる予定です)

のようになります。会話で×印の言い方をしないように要注意ですよ。それでは、次に現在形と **be to~** の使い分けを見ていきましょう。

5. 「未来」を表す「現在形」をマスター！

「確定未来」を表すのに用いられる「未来を表現する場合の現在形」は、次のような場合に使います。

① 時刻表やプログラムなどのような公に決まっていること

Their plane arrives at 2 o'clock in the morning.

(彼らが乗った飛行機は午前2時に着く)